



局會議室に於て幹事會を開催、佐藤理事、細田、近藤、谷口、金子、藤井、岩澤、小島の各幹事平井囑託出席、道路舗装の普及發達を圖るため、パンフレット並に「道路の改良」の特輯號「道路舗装號」を出版するの件に就いて審議した。

◎内務省土木局の異動

畑山福岡縣知事が東京市教育局長となる爲退職せられたので土木局長赤松小寅氏は出て、福岡縣知事に轉せられ、三重縣知事安藤狂四郎氏土木局長に福井縣知事羽生雅則氏三重縣知事に内務省土木局河川課長中野與吉郎氏福井縣知事に内務事務官澤重民氏河川課長に何れも榮轉せられた、

安藤局長と澤課長の略歴は左の如し。

安藤土木局長

大分縣出身、明治二十六年三月八日誕生、大正七年七月東京帝國大學法科

◎理事會 昭和十二年十一月十五日正午九ノ内常盤家に於て理事會開催、水野會長、山田、長岡、佐上、牧、中川(吉)、赤松、青山、辰馬、谷口、佐藤、鈴木各理事、安藤土木局長、阿部主任幹事出席、新任内務省土木局長安藤狂四郎氏に理事囑託の件を附議可決、次いで水野會長の赤松理事の常務理事在任中に於ける盡力に對する謝辭に對し、赤松理事より挨拶あり更に水野會長より新任内務省土木局長安藤狂四郎氏に對し、理事囑託並に常務理事として本會の庶務御擔任御苦勞を願ひたき旨挨拶あり、午餐を共にして午後一時半散會した。

◎幹事會 昭和十二年十一月五日午前十時より内務省土木



大學法律學科卒業、同十月二十五日文官高等試験行政科試験合格同十一月二十日新潟縣屬となり、同八年四月十二日新潟縣警部兼屬同八年十月二十三日内務屬(衛生局勤務)となり同九年六月八日鹿兒島縣出水郡長に轉じ同十一年六月九日栃木縣理事官(商工課長)同十三年十二月二十日地方事務官(栃木縣勤務)同十五年十月十二日東京府に轉勤、昭和四年一月三十日岩手縣書記官警察部長となり同四年八月八日内務事務官(地方局勤務)同五年一月十一日警務官同六年四月二十日内務書記官となり同年十一月九日大臣官房文書課長を兼務、同六年十一月三十日資源局事務官に轉じ同年十二月二十七日東京府書記官學務部長となり同七年六月三十日靜岡縣書記官内務部長に同十年十五日茨城縣知事に榮轉同十二年一月八日三重縣知事に轉じ本年十一月八日内務省土木局長となられた。

澤河川課長 三重縣出身(三重縣阿山郡上野町西山)明治三十四年四月二十九日誕生大正十三年二月文官高等試験合格、同十四年三月東京帝國大學法學部卒業同年四月十日

内務省社會局屬となり次で休職となり同十五年二月三十日陸軍二等計手豫備に編入せられ社會局屬に復職す昭和二年二月十九日瑞西國ジュネーブに於て開催の第十四回國際勞働會總會に於ける政府代表委員附となる、同年五月二十日國際勞働機關帝國事務所書記となつて社會事務官兼任、同五年四月一日瑞西國ジュネーブに開催の第十四回國際勞働會に於ける政府代表委員隨員となる。同五年七月三日歸朝を命ぜられ、同九月三日地方事務官(佐賀縣勤務後岐阜縣勤務)同年七月八日内務事務官土木局勤務となり本年十一月四日河川課長となられた。

◎年賀狀の廢止

内閣書記官長風見章より廣瀨内務次官宛内閣甲第二九〇號昭和十二年十一月十一日付を以て左之通り通牒せられた。

年賀狀廢止ニ關スル件

標記ノ件本日常官會議ニ於テ左記ノ通申合有之候條爲念此段及通牒候

記

—四時迄

時局ニ鑑ミ官吏ハ年賀狀ヲ廢止スルコト

場 所 本郷區駒込上富士前町二十六内務省土木試験所

◎内務省土木試験所談話會

講堂

十一月中に開催したる土木試験所談話會に於ける話題は次の通りである。

第百六十一回技術談話會話題

一、利根川河口の模型試験と實測結果との比較(二十分)

時 日 昭和十一年十一月十二日(第二金曜)午後二—

松尾 技師

—四時

二、土堰堤内に於ける滲透水の流動狀態に就て(四十分)

場 所 本郷區駒込富士前町二六内務省土木試験所講堂

高田 技師

一、舗装道路の車線幅に關する一實驗(三〇分)

金 森 技師

金子 技師

◎航空懇話會の創立

二、暹羅國バンコック港の設計に就て(三〇分)

交通運輸上は勿論近代戰爭上も立體的體形に向つて發展

島野技師(土木局)

三、朝鮮土木事業視察談(約一時間) 中川吉造氏

し行くを見る、從つて航空の事業に關しての研究は一日を

以 上

緩うするを許されざることゝなつて陸上海洋の交通と相俟

第百六十二回技術談話會話題

つて加速度に發達せしめねばならぬ、頃日元内務次官湯澤

時 日 昭和十二年十一月二十四日(水曜日)午後二—

三千男氏元文部次官河原春作氏元東京市助役齋藤守冑氏元

内閣調査局長吉田茂氏元東京府知事香坂昌康氏其他徳川義

親侯小幡、今井田、江口三貴族院議員並に檜崎(敏雄)。三宅(驥)、山本忠興の三博士を役員とする航空懇話會が創立せられた、其趣旨規約は次の通である。現代の戰爭に於いて孰れの國と雖も空軍勢力無くしては其最高戰鬥力を發揮し得ざることは事實の雄辯に立證するところなり、空軍勢力を具備せざる艦隊、航空機の掩護なき陸上軍隊が攻防孰れの戰鬥に於いても其能力を完全に發揮し得ざるは多く言ふの要なかるべし、今後の戰爭に於いて航空機に依る立體戰が益々缺くべからざる重大要素となるべきは正に瞭然たる事實といはざるべからず。更に又航空輸送事業は未だ發達の初期にあり現在に在りては鐵道又は海運の如き在來の交通機關に比し重要性を缺くが如しと雖も新時代に於ける極めて有力なる交通方法たることは言を俟たざるところなり。然るに我國に於ける航空界は諸般の點に於いて諸外國に比し多大の遜色あるは遺憾なりと云ふべし。殊に航空に關する經濟學又は文化科學の研究の如きは先進國に比し極めて幼稚なる段階に在り、加ふるに未だ確固たる航空國策

の樹立なく之を小にしては我國交通事業の發達上之を大にしては我國運の發展上誠に寒心に堪えざるものありとす。本會は以上の點に鑑み又國家非常時に顧み有志の士集まりて航空國防、航空輸送事業、航空文化科學乃至航空國策全般に關する研究、調査を行ひ報告を公表し、國民を指導し、當局を鞭撻し、以て國家發展の一助たらんことを期するものなり。

◎近刊の圖書雜誌

○汎交通(十月號十一月號)

(東京品川間線路増設に就いて(1))

○大阪商工會議所月報(十月號十一月號)

(武田鼎一氏に戰局の進展と經濟界の將來。現下に於けるバルブ問題の意義)

○セメント界彙報(三五五號三五六號)

○科學知識(十一月號)

○鐵道軌道經營資料(二〇卷一〇號)

○石油時報(十月號)

(川橋一郎氏) 外國液體燃料國策の概要(2)

○法律時報 (九卷一一號)

○技術日本 (一七八號)

(岡田道一氏) 技術官優遇と御料萬能排撃

○建設 (二卷五號)

(米田技士) 道路改良會開催道路職員講習會に出席し

h)

○高知市報 (二二二號)

○土木學會誌 (二三卷一一號)

○日立評論 (二〇卷一一號)

○土木 (三七號)

(福澤太巳氏) 法芝の育生

○上海南京方面のコンクリート工事寫眞集 (コンクリート叢書)

○港灣 (一五卷一一號)

(田北隆美氏) 港灣經濟に於ける公企業論

○國立公園 (九卷四號)

○電氣通信學會雜誌 (一七五號)

○水利と土木 (一〇卷一一號)

○土木建築工事畫報 (十一月號)

(原雄次郎氏) 完成近き大阪地下鐵の無鐵筋拱隧道

○駿工 (一三卷一〇號)

○大阪阪 (一三卷一二號)

(竹中龍雄氏) 本邦市營企業發達史上に於ける大阪市の地位)

地位)

○公園綠地 (一卷一〇號)

(六甲山計畫特輯號)

○三田學會雜誌

(氣賀健三氏) 社會主義經濟と經濟的福祉

x x x x

x x x x